

2022年10月24日

同志社大学社会学部社会学科「板垣ゼミ」レクチャー資料

京都五山送り火映像ライブラリとその背景

京都市文化市民局文化財保護課

主任・文化財保護技師 福持 昌之

はじめに

事業着手の経緯（市予算要求、規模感、コロナ禍）

映像ライブラリの構造（五山ダイジェスト、五山一般編、個別一般編、個別資料映像）

映像ライブラリの特徴（プロの撮影と関係者による Gopro 撮影、ウェブサイトで公開）

課題…過去の資料映像が未整理、多言語化未対応

[1] 京都五山送り火と京都市

1. 観光と文化財

京都三大祭、京都四大大行事

文化観光局⇒文化市民局、産業観光局

京都五山送り火協賛会

2. 補助金概要

修理補助…火床の整備など。概要によって額は変動。

執行補助…毎年一定額。

3. 京都五山送り火連合会事務局

点火連絡業務

研修・後継者育成

補助金分配

その他（マスコミ対応など）

4. 無形民俗文化財として

法で保護の義務は所有者と規定、行政は側面から支援する立場

文化財保護行政において執行補助という考え方は例外的

5. 将来像

受益者負担の考え方、受益者とは

民俗文化財で許容される変化とは

公益財団法人京都市文化観光資源保護財団の役割

[2] 無形民俗文化財の映像記録

1. 無形民俗文化財の映像記録のあゆみ

作品としてのドキュメンタリー映画

記録としての3点セット（記録編、伝承編、一般編）

いわゆるHDシステム

素人やセミプロによる安価な映像との併用

2. その課題

調査報告書を作成してから映像制作（3点セット）

作品性は不要？・・・ことさら強調する必要はない。しかし、抹消することは無理。

著作権（財産権）と著作者人格権の問題が未整理

肖像権と個人情報保護の問題が未整理

映像の視聴の機会の確保、公開方法は？

行政として製作すべき映像とは？

3. 京都市の「伝統行事・芸能等記録映画」

16mmフィルムによる短編映画を京都市が製作して貸出

他者が製作した作品の寄贈を受けて貸出

平成11年度以降はVHSビデオで短編映像を製作

16mmフィルムはテレシネしてVHSビデオ、のちにDVDビデオで貸出

[3] 平成21年度以降の京都市文化財保護課の映像事業

1. 京都市伝統行事・芸能記録映画の貸出業務

作品数を増やす、貸出数を増やす、自主企画で上映するなど活用の機会拡充

2. 3点セットを基本とする映像製作

市原のハモハ踊・鉄扇（記録編、伝承編、一般編）

上高野念仏供養踊（記録編、伝承編、一般編）

久多の花笠踊（記録編、伝承編、一般編）

広河原ヤッサコサイ（記録編、伝承編、一般編）

八瀬赦免地踊（一般編）

松ヶ崎題目踊・さし踊（一般編）

剣鉦のまつり（民俗誌映像、技術映像、マップ映像）

3. レクチャー動画の製作

伊藤賀一解説「京のほぼ30秒講座」30作品

川添智未解説「親子で学ぼう 京の食×年中行事」4作品

3. 比較的安価な映像製作

京都をつなぐ無形文化遺産「京の年中行事」10作品

文化庁、関西広域連合、その他の映像制作に「協力」

4. HDシステムによる映像製作

久多の花笠踊（試作品、未公開）

京都五山送り火映像ライブラリ

（京都五山送り火連合会のウェブサイトで公開）

⇒一般向映像のほか、各種資料映像をパッケージにしてウェブサイト上で提供

5. 公開システム

京都の歴史と文化 映像ライブラリー

(公財・京都市文化観光資源保護財団のウェブサイトで公開)

⇒ウェブでの閲覧に限り自由に見ていただける、映像のウェブ図書館

内容：「京都市伝統行事・芸能記録映画」、「京の郷土芸能のつどい記録映像」

「京都市歴史資料館館内映像」

[4] 映像製作の実際

1. 仮編集をチェックする場合

テロップの内容とタイミング (15文字×2行以内、1秒4文字程度)

ナレーション原稿チェック、ナレーション録音立ち合い

クレジットの内容 (タイトル・製作・制作・協力・補助事業表示)

2. 3点セットを基本とする映像製作

監修会議で撮影計画を吟味

撮影立ち合い

編集会議 (仮編集→修正、仮字幕→修正、仮吹込み→修正、録音立ち合い、試写)

3. 撮影立ち合い時の留意点

被撮影者、対象とのコミュニケーション

余計なものを省く

光の確認

どうせなら美しく撮る (着衣の乱れなど)

4. ナレーション録音立ち合い時の留意点

聞いていて理解できない言い回しは、原稿を直す (もしくはテロップで補足)

発音が難しい聞きにくい発音は、原稿を直す

イントネーションなどは、電話で関係者に確認する

5. 成果物

DVD ビデオ SD 画質 (640×480ppi)

Bru-ray ビデオ HD 画質 (1920×1080ppi)

MP4 HD～4K 画質 (3840×2160ppi) …DVD 納品は時代遅れ

[5] 映像資料の可能性

平成17・20・29年度(2005・2008・2017)創研大レクチャーの合宿で大森康宏に学んだ。その際、映像という手段で論文(的なもの)を製作するという発想に驚いた。一方で、映像が不得手とすることは、紙媒体の論文(文章)で表現する方が良く、わりきって分業するべきだとも考えた。

平成21～25年度(2009～2013)CN インターボイスと文化財映像の製作に従事した。そこで、文化財の記録映像の製作は、自治体史の編纂に近いと気付いた。つまり、普及啓発編＝自治体史の通史編、記録編＝自治体史の資料編、伝承編＝伝承用テキストなど。

映像資料も紙資料も、決定版を1つ製作したら未来永劫それで良い、というわけではない。文化財の継承のためには、適宜、新たな記録を作っていく必要があり、これまでもそうしてきた。